

(款) 10総務費 (項) 25統計調査費 (目) 5統計調査総務費

◎統計調査管理の経費

統計調査事務

【 総務課 】

【総合計画上の位置づけ】

計画の前提

行財政運営:地方分権社会に対応した持続可能な行財政基盤の確立と効果的な都市経営をめざします

【事業の目的】

対象 市職員等

意図 国及び地方公共団体の行政施策立案のための基礎資料を収集するため。

効果 各種施策立案の基礎資料を提供する。

【事業の内容】

(1) 統計調査事務

- ・ 統計調査を行うための基本的な管理事務経費を支出した。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
2,602	2,602	2,171		431

主な支出内訳

・ 統計調査事務

事務補助嘱託員報酬 2人

1,848

統計調査員報償費 85人

62

研究会講師謝礼

40

統計調査用消耗品費

117

神奈川県市部統計事務研究会負担金

8

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	□サービス部門 ■支援部門 総務-06 統計調査事業						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	596 統計調査事務					
主管課	総務課	関連課					
分野名	行財政運営						
目標 (目標値)	円滑な統計調査実施のため、登録統計調査員の確保と資質の向上を図る。 登録統計調査員事務研究会出席率 100%						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運 営 資 源 状 況	決算値	2,171千円	177千円	238千円			
	(国・県)						
	(負担金等)	47千円	51千円	50千円			
	(一般財源)	2,124千円	126千円	188千円			
	人員配置数	0.4人	0.7人	0.7人			
	人 件 費	3,619千円	6,466千円	6,446千円			
	協 働 の パ ー ト ナ ー						
事務事業 運営経費	総事業費	5,790千円	6,643千円	6,684千円			
	市民1人当 りの経費	33円	38円	38円			
	対象者1人 当りの経費						
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※		
						※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
登録統計調査員事務研 究会参加人数	×	目標値	60人	60人	60人	60人	60人
		実績値	26人	18人			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 登録統計調査員が減少傾向にあるとともに、調査員の資質の向上を図るために実施する事務研究会への出席者が減少傾向にある。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 国勢調査等各種統計調査経験者に対し登録の意思を確認し登録調査員の増員を図るとともに、事務研究会の開催時期や講演のテーマについて検討し、できるだけ多くの登録調査員に出席してもらえよう努力した。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 「課題・問題点」に同じ。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 引き続き、各種統計調査経験者に対し調査員登録の意思を確認することやホームページを活用し募集を行うなどにより登録統計調査員の増員を図るとともに、直接要望を聴くなどしてできるだけ多くの調査員が出席できる事務研究会のあり方について検討していく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	国が定める調査員面接方法による統計調査の円滑な実施のためには、質の高い登録統計調査員の確保が欠かせない。できるだけ多くの調査員の出席が望める研修の場を提供していく。		
担当課長氏名:	総務課長 内藤 昭二		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	市民に信頼される登録統計調査員の安定確保のため、事務研究会の実施のほか様々な機会を通じ適切な施策を講じる。		
担当部名	総務部	部長名	兵藤 芳朗